

第21回山形市中心市街地活性化戦略本部会議議事録

1 開催日時 令和4年11月22日(火) 午前10時30分～午前11時30分

2 会場 山形商工会議所 5階 大ホール

3 出席者

(1) 本部員7名

山形市長		佐藤 孝弘
山形商工会議所	会頭	矢野 秀弥
山形市中心商店街街づくり協議会	会長	船山 隆幸
山形青年会議所	理事長	吉田 昌平
山形大学	教授	山田 浩久
東北芸術工科大学	教授	馬場 正尊
NPO 法人やまがた育児サークルランド	代表	野口 比呂美

(2) 山形市中心市街地活性化戦略推進コーディネーター

まちづくりプラン研究所	代表	牧 昭市
-------------	----	------

(3) 事務局15名

商工観光部長、山形ブランド推進課長、山形ブランド推進課課長補佐、
街なか・商業グループ員(5名)、山形商工会議所(4名)、
山形エリアマネジメント協議会(3名)

4 傍聴者

記者：3名

5 内容

(1) 協議

- ・山形市中心市街地グランドデザインの改訂について
- ・令和5年度事業の進め方について

6 資料の名称

- ・資料1 山形市中心市街地グランドデザイン(案)
- ・資料2 山形市中心市街地グランドデザイン(概要版)
- ・資料3 令和5年度事業の進め方について

7 議事録

(1) 開 会 (事務局)

(2) 山形市長あいさつ

新型コロナウイルス感染症の拡大や、円安、エネルギー・原材料の高騰などにより、地域経済は依然として厳しい状況が続いている中で、先月から全国旅行支援が開始されるなど、国による新たな施策が動き出している。

山形市においては、第2弾、第3弾とプレミアム付き電子商品券を販売し、原油・物価高騰の負担軽減と地域経済の回復を図っている。

また、中心市街地では旧千歳館や山形舞子などの文化資産をいかに中心市街地の活性化に活かしていくかという観点でイベントを開催した。大勢の人で賑わい、コンテンツにおいても創意工夫を凝らしながら実施できたことから実証的な良い取組ができたと考えており、今後の本格的な活用に向けて更に進めていきたい。

旧大沼の土地についても、立地における特性や優位性を考えながら工夫を凝らして中心市街地の活性化に取り組んでいきたいと考えている。その際にはランドデザインが必要となり、全体のビジョンによって個別の取組の方針も定まってくる。そのために、本日の議論でランドデザインをより良く改訂し、新たな中心市街地の創造に向けて皆様と一緒に進めてまいりたい。

本日の会議では、いま申し上げた中心市街地ランドデザインの改訂（案）と来年度の事業の進め方について協議いただく。ぜひ忌憚のない意見をいただくことをお願いする。

(3) 議事録署名人の指名 (本部長)

船山 隆幸 本部員

野口 比呂美 本部員

(4) 協 議

座 長 協議事項「山形市中心市街地ランドデザインの改訂について」の内容について事務局から説明をお願いします。

事 務 局 「山形市中心市街地ランドデザインの改訂について」
(約11分)

座 長 質問、意見等はあるか。

本 部 員 新テーマの設定により、ランドデザインをより具体的にイメージできて良いと感じる。ただ、商業者としての目線で申し上げると更に具体的なイメージがあれば、民間投資の呼び水にもなるのではと考える。当方の商店街エリアにおいてはテナントがある程度埋まっている状況もあるために、退去に係る補償

金を払ってまで建替を行って、集客力のある優良テナントを呼び込める確証があるのかといった点に関して不安な状況。そのため、建て替えを行ったり、リノベーションで生まれ変わらせようという雰囲気があっても地権者としてはなかなか決断しにくい現状である。

今回の新テーマの「歩くほど幸せになるまち」に関しては、栄町通りの対面通行が実現し、七日町やすすらん通りのウォークアブル化が進んで、より自由にテラス営業をできるような環境が整備されれば、飲食店の出店意欲を掻き立てるものとなる。まちが将来的にどのように変化していくのかロードマップ的なものを示していただけると投資を呼べるのではないかと考える。

事務局 より具体的な将来像を示すことができれば最善であるが、未決定の事項について関係者等に話を通さないうちに落とし込むことは難しい。資料1には現在取り組んでいる事業を記載した地図があり、これらを進めていくにあたってはコンセプトを念頭に置いてまちを変えていくという提示でご了承いただきたい。

座長 更に具体化が進んだものに関しては随時改訂をしていきたいと考えている。

本部員 戦略プロジェクトの進め方についての意見を申し上げたい。山形エリアマネジメント協議会の会議のあり方としてこれまで以上に個別のプロジェクトに焦点を当てた話し合いを行うことで、個別事業をより深掘りして進めていければ良いのではないかと思う。

座長 協議会での事業の進め方についてはご意見を踏まえて進めていきたい。

本部員 新テーマにある「歩く」という点に関して、若者や一般的な来街者のことを考えた改訂であると思うが、障がい者や外国人に配慮した記載はあるのか。

事務局 ご質問の点に関しては中心市街地のみならず、市全体の取組に関連する。コンセプトにおける回遊できる仕組みづくりという点においては、現状では健常者向け、若者向けの目線が主立ってきてしまう。回遊という点に関してバリアフリーやインバウンドの観点も必要だが、市全体として取り組んでいくべき事

項であるために記載していない。

- 本 部 員 障がい者や外国人向けの重点的な施策はないということか。
- 事 務 局 概要版の「健康・医療・福祉・子育て」分野の「子育て世帯に優しい環境整備」において、歩道や公共空間のフラット化を施策として記載している。街なかでは今年度より歩行者天国を活用したイベントを再開しており、ベビーカーを引いた来街者なども通行しやすくなっている様子も見られ、歩きやすさは街に必要な要素である。これはベビーカーのみならず車椅子の方にも共通して必要な要素であり、そういった観点でのまちづくりが必要である。
- 座 長 市としてバリアフリー化を進めている、例えば歩道の消雪についても更なるネットワーク化を推進しており、車椅子の方や外国人にもプラスの要素である。公共施設では、Q1において完全バリアフリー化を実施していることから、市として全体的に取組を進めていきたい部分である。
- 本 部 員 旧大沼が閉店した影響は大きかったが、様々な事業が展開され新たな流れが出来つつある。ルルタスのオープンにより、御殿塚からほつとなる広場までのエリア一帯での人出が増えてきている。加えて、Q1のオープンや旧千歳館での先日のイベントにより街を回遊する人が増えたのは良いことである。今後もグランドデザインに沿って進めていければと考える。
- 座 長 これまで進めてきた取組の結果が多少出てきており、今後も更に推し進めてより賑わいを創出したいと考える。
- 本 部 員 全体的に当初策定時よりもブラッシュアップされて良くなっていると感じる。これまで関係してきた方々と引き続き連携し取り組んでいただきたい。多様な都市機能集積へのステップアップという点は今後重要になる。七日町は市の中心部であるとともに県都山形の中心である。当初策定時からの戦略プロジェクトの推進において円滑に進んだ部分と進まなかった部分の双方があったかと思う。改訂に関する以外にも、県と連携しながら進めていければ様々な取組がより良いものにもなると考える。
- 座 長 県との連携については随時綿密に行っている、県民会館跡地に市民会館を整備する方向性を共に定めて取り組んでいるこ

とや、新幹線のトンネル整備に併せて山形駅の東西をより活性化していく取組もあることから、しっかりと進めていきたい。

コーディネーター 今回の改訂により商業から多様な都市機能へのシフトチェンジを掲げることで、日本の人口が8,000万人に減少していく2060年に向けた準備ができたと考える。将来、人口減少に伴う消費の減少により、外需の獲得が重要となる。改訂により山形駅前エリアを商業と観光双方の目線を持ったゾーニングとすることで外需を稼ぎ、商業を支える体制が構築できるものとする。

座長 グランドデザインの改訂については、頂戴した意見を基に提示した案の通り進めてよいか。

本部員 (了承)

座長 ではこのような形で改訂を進めていき、具現化できるように取り組んでいく。

座長 協議事項「令和5年度事業の進め方について」の内容について事務局から説明をお願いします。

事務局 「令和5年度事業の進め方について」、
(約6分)

座長 質問、意見等はあるか。

本部員 なし

座長 改訂も踏まえながら、このような形で事業を進めてよいか。

本部員 (了承)

座長 それでは、このような形で進めていく。

(5) その他

座長 その他について、本日リモートで出席いただいている本部員からも一言お願いしたい。

本部員 Q1がオープンして2ヵ月半が経過するが、マルシェを開催すると多く出店があるほか、Q1前の広場に多くの人立ち寄

ったり、保育園の遊び場になるなど、より多くの市民にくつろいでもらっている。雪国なので冬の道路活用は難しいが、公共施設に居心地の良い空間を創出することで市民各々が過ごし方を考えて滞在する行動様式を見出した。今後もこのような空間を増やしていければと考えている。

その他にもQ1を整備したことで、様々な企業がコラボレーションする動きが出てきている。この動きを通して、まちづくりは産業づくりである点や企業連携を更に進めることで街なかに人だけではなくお金を呼び込める点を再認識した。

中心市街地の現状では、街なかへアクセスするための移動手段が乏しいことが課題であると考えており、コミュニティサイクルも含めた公共交通のあり方を検討していく必要がある。

また、DXの観点では人の流れを把握するために定点カメラを設置して調査すれば、よりの確できめ細やかな政策立案ができると思う。

座長 Q1では2日後にナイトマルシェを開催することからも、ぜひ足をお運びいただきたい。

公共交通のあり方に関しては、山形市地域公共交通計画を策定し推進しており、いただいたご意見なども踏まえながら市として取組を進めていきたい。

(6) 閉会（事務局）